

【放送日】6月18日(日)あさ7時45分

(再放送：毎週日曜日 夕方5時15分)

◆番組の概要

公共工事の減少などに伴い、厳しい経営環境にある建設業。岩手県は、建設業の経営基盤強化や業種転換などを支援するため、各振興局等に「建設業総合相談センター」を開設しました。

番組では、厳しい状況の中でも、新しい発想と工夫で前向きにチャレンジする建設業者をご紹介します。

新しい風が地域を元気にします!

◆番組の内容の一部を紹介します。

実はこの炭のオブジェを作っているのは、道路や建物などをつくる建設業の会社。今回は、建設業の新しいチャレンジについてご紹介します! 炭のオブジェを作っているのは、木戸口工務店の事業部。「ぐりーんぐれーす【炭の詩(うた)】として炭を使ったインテリアを製造販売しています。一つ一つ丁寧に手作りされたオブジェは県内外のデパートで販売されており、贈り物などに人気をよんでいます。炭のオブジェを新事業にしようという、決断から行動まではわずか1ヶ月。驚きのスピードで新事業はスタートしました。しかし、まったく新しい分野への進出と言うことで、苦労もあったようです。今、建設業界全体で、このような新分野への進出が注目されています。その背景にあるのが、公共事業の減少です。現在、道路建設などの県内の公共事業は減少傾向が続いています。一方、建設業の許可業者の数はほぼ横ばい状態。仕事をする企業の数は変わらないのに、仕事は減っているという状況です。公共事業にばかり頼ってはいは、経営環境がどんどん厳しくなると予想されます。



朝、地域の高齢者のみなさんが集まってきました。矢巾町にある「デイサービスセンター百万石矢巾口」です。ショートステイや接骨院も併設されているこの施設は、建設業を営む株式会社水本が親会社。建設業から、介護事業へのチャレンジです。デイサービス以外にも、介護タクシーの運営や訪問介護、高齢者用の住宅の建設など、介護事業において、その取り組みはどんどん広がっています。さらに、新しい分野への進出も始まりました。



収穫されたイチゴは温泉施設で販売されるほか、介護施設の食事にも提供されています。建設業から、介護事業や農業へ。あざやかな新事業展開を成功させた株式会社水本。自社の資源をいかしたのはもちろんのこと、その根底には、地域への想いがありました。岩手県は、建設業の経営基盤強化や業種転換、経営の多角化などを支援します。この5月から各振興局等に、「建設業総合相談センター」を開設。建設業界の相談機関、「建設業経営支援センター」と連携を図りながら、情報提供や相談事業などを行います。建設業界の技術や資本などを新しい分野にもたらすことで、地域経済の活性化と雇用の安定を目指します。県の支援と、建設業界の新しい動きについて、建設業経営支援センターの水上さんにお話を伺いました。水上さんは、建設業者の新規事業などに対し、相談に応じています。

(以下、詳しい内容につきましては県政番組のHPからご覧ください) <http://www.tvi.jp/jouhou/>

お問い合わせ先：県庁県土整備企画室 019-629-5954